

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530708

研究課題名(和文) 地域を基盤としたソーシャルワークの理論化に向けた個と地域の一体的支援に関する研究

研究課題名(英文) Integrated Support of Individual and Community in Social Work Practice :  
Development of Theory of Community-Based Social Work

研究代表者

岩間 伸之 (Iwama, Nobuyuki)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授

研究者番号：00285298

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は地域を基盤としたソーシャルワークをめぐる特質の一つである「個を支える地域をつくる援助」と「地域福祉の基盤づくり」をつなぐ「個を支える地域をつくる援助」に焦点を当て、そこでのワーカー機能の明確化に取り組むとともに、高次脳機能障害のある本人の力を活用したソーシャルワークに関する研究に取り組んだ。「個を支える地域をつくる援助」のワーカー機能では「個と地域の間にはプラスの相互作用が生じるように働きかける」等の8つの機能を明らかにした。高次脳機能障害のある本人の力を活用したソーシャルワークでは「自己の認識と事実のずれ」など生活のしづらさを整理し、それぞれの課題に対する働きかけを明らかにした。

研究成果の概要(英文)： In community-based social work, social workers have to help individual and community at the same time. And social workers must promote making the foundation of community welfare. This study focuses on the social worker's functions for helping community which supports the individual. In addition, the way to make use of the competency of people with higher brain dysfunction in social work practice is studied.

In result, it was found that the social worker's functions for helping community to support individual have eight functions. For example, it is the approach to make a good interaction between individual and community. The way to make use of the competency of people with higher brain dysfunction was discussed about their life difficulties and the approach for solving them.

研究分野：社会福祉学

キーワード：ソーシャルワーク 総合相談 地域包括ケア 当事者 権利擁護

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 「個を支える地域をつくる援助」におけるワーカーの機能

近年、わが国の福祉施策は、地域包括ケアシステムや地域包括支援センターに顕著にみられるように、日常生活圏域等の一定のエリアを基盤とした総合相談体制を推し進めようとしている。この一定圏域における総合相談を支える実践理論が「地域を基盤としたソーシャルワーク」である。その特質は、「個を地域で支える援助」と「個を支える地域をつくる援助」という2つのアプローチを一体的に推進する点にある。そして地域を基盤としたソーシャルワークの実践を積み重ねていくことにより、「地域福祉の基盤づくり」につなげていくことが求められる。

これまでのわが国での地域ベースでのソーシャルワーク実践を振り返ると、地域包括支援センター等を中心として「地域を基盤とした総合相談」が展開されるようになり、「個を地域で支える援助」の取り組みはかなり促進されてきた。どこまで個を地域で支えることができたかどうかは検証の必要があるが、少なくとも「個別支援」については有意義な実践が相当蓄積されてきたといえる。

一方、「地域福祉の基盤づくり」の実践も、社会福祉協議会を中心として地域住民による小地域福祉活動の活性化、福祉教育の取り組み、地域福祉計画の策定等、多様な取り組みが蓄積されてきた。

しかしながら、「個を支える地域をつくる援助」と「地域福祉の基盤づくり」をつなぐ「個を支える地域をつくる援助」の取り組みに関しては、理論的にも実践的にも十分に明確にされていない。本研究においては、この「個を支える地域をつくる援助」に焦点化した。

(2) 高次脳機能障害の本人の力を活用したソーシャルワーク

高次脳機能障害者への支援は、診断基準や訓練プログラムの明確化など医療領域での取り組みは進むものの、障害者の権利擁護の観点から地域社会のなかで障害者一人ひとりの能力と適性に基づいた個別支援と障害者を支える地域社会づくりを進める有効な方法は未だ確立されていない状況にある。また、障害者総合支援法においてケアマネジメントが義務化されたなか、障害者が地域で継続して生活できるような援助方法の確立が急がれている。

## 2. 研究の目的

(1) 「個を支える地域をつくる援助」におけるワーカーの機能

地域を基盤としたソーシャルワークの特質の1つである「個を地域で支える援助」と「個を支える地域をつくる援助」という2つのアプローチのうち、「個を支える地域をつくる援助」に焦点を当て、そのワーカー機能

を明確にすることを目的とした。

そこでのソーシャルワーカーの機能を明らかにすることは、地域を基盤としたソーシャルワークにおける理論的發展と地域福祉との関係を明確にすることができる。

(2) 高次脳機能障害の本人の力を活用したソーシャルワーク

地域で生活する高次脳機能障害者の語りに焦点をあて、障害特性によって生起する社会生活上の「生活のしづらさ」とその構造について明らかにし、ソーシャルワーク実践における働きかけの焦点を明示することにある。併せて、本人の問題解決のプロセスを可視化することを通じて、対象認識を明確化しソーシャルワーク実践の方向性を提示することを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 「個を支える地域をつくる援助」におけるワーカーの機能

社会福祉士の資格を有し、かつ地域を基盤として活動するソーシャルワーカー3名から「個を支える地域をつくる援助」として実践した事例の提供を依頼し、その事例におけるワーカーの働きかけの意図に関するインタビュー調査を定期的実施した(2012(平成24)年8月から2014(平成26)年12月までのおおむね月1回の頻度で計15回実施)。得られたデータについては、逐語に起こし、コーディングとカテゴリー化を図って質的に分析し、「個を支える地域をつくる援助」におけるワーカー機能の明確化に取り組んだ。

(2) 高次脳機能障害の本人の力を活用したソーシャルワーク

当事者へのインタビュー調査にてデータ収集を行った。生活のしづらさに関する研究では、当事者5名にインタビューを実施し、結果の一般化を図るため質的(定性的)分析法にて分析した。他方、対象認識に関する研究では、障害との関連を深く抽出するため、言語による情報提供が可能な2名の当事者を対象にナラティブ・インタビューおよびナラティブ分析を実施した。

## 4. 研究成果

(1) 「個を支える地域をつくる援助」におけるワーカーの機能

インタビュー調査で得られたデータを分析した結果、26のコードと8つのカテゴリーを生成した。その8つのカテゴリーを「個を支える地域をつくる援助」としてのワーカー機能としてとらえた。表1は、それらを一覧にして示したものである。以下、順にその概要を述べていく。

表1 「個を支える地域をつくる援助」におけるワーカーの8つの機能と26のコード

1. 個と地域の間にはプラスの相互作用が生じるように働きかける
本人に地域への理解を促し、地域に対するプラスの感情が生じるように働きかける 地域における支援は、支えあう活動であることを住民に示す 住民の本人理解を通して、住民と本人の関係を良好な関係に転化させる
2. 個に向けてワーカーと地域が協働して支援できるようにする
課題を抱える個に対する住民の気づきを専門職が支える 課題を抱える個に対する地域における支援への住民の理解を促す 地域が担える個を支える力を見極める
3. 個の支援への積極的な参加を地域に促す
個に対して地域ができる支援について具体的に考えることを促す 住民の地域における支援者としての役割を知らせる 住民に本人の支援の担い手として支援へ参画することを促す
4. 個と地域の間には支援関係を構築する
地域による支援を受け入れることを本人に促す 地域が支援の担い手として受け手のニーズを認識し、地域での支援に向けての体制を整えることを促す 支援の担い手と受け手として、支援関係を築く場を設定する
5. 地域による個への支援の質を深める
支援者間の連携を強化する 住民による支援の質を向上させる 住民による支援を活性化させる 専門職と住民の支援の協働のあり方について伝える 本人のニーズに合わせた支援を展開することを示す
6. 地域による個の支援の広がりを促す
本人の支援者の広がりを促す
7. 新たなニーズへの気づきを地域に促す
住民に地域における支援の効力感を感じさせる 課題を抱える個に対する地域による支援について考える機会を提供する ②地域に支援を要する人が新たにいることへの気づきを促す
8. 個を支援する環境を整える
②住民が地域における支援の有用感を感じることで、地域における支援の質の向上を図ることを促す ③課題を抱える個に対する支援を地域全体の取り組みとする ④専門職と地域が協働して個を支えるための連携体制を築く ⑤課題を抱える個が地域で暮らすために専門職の責務について示す ⑥個を支える地域としての基盤をより強化させる

個と地域の間にはプラスの相互作用が生じるように働きかける

このカテゴリーは、本人に地域への理解を促し、地域に対するプラスの感情が生じるように働きかける、地域における支援は、支えあう活動であることを住民に示す、住民の本人理解をとおして、住民と本人の関係を良好な関係に転化させる、という3つのコードからなるものである。

地域生活上の何らかのニーズを抱える本人を地域で支えていくうえにおいて、本人と地域住民等の間に良好な関係が構築されていることが前提になければならない。そこで、ワーカーは、本人に対して地域が支援することへのプラスの感情が生まれるように働きかけたり、地域に対しては一方向的に支えるのではなく、お互いに支えあう支援を行っていくのであるという理解を促したりすることによって、本人と地域住民との間にプラスの相互作用が生じるように働きかけていく。

個に向けてワーカーと地域が協働して支援できるようにする

このカテゴリーは、課題を抱える個に対する住民の気づきを専門職が支える、課題を抱える個に対する地域における支援への住民の理解を促す、地域が担える個を支える力を見極める、の3つのコードからなるものである。

地域住民が本人の地域生活におけるニーズに気づいたり、ワーカーから地域の支援を必要とする人が存在していることを伝えるだけでなく、そこから具体的に地域住民が支援を行う行動へと展開させていく働きかけが求められる。

その働きかけとして、ワーカーは、個が抱える課題に対する住民の気づきを支える働きかけを行ったり、支援の必要性に関する地域住民の理解を促したり、具体的な協働へとつなげていくために、地域がどのような支援を担うことができるのかを見極めるなどを行っていく。

個の支援への積極的な参加を地域に促す

このカテゴリーは、個に対して地域ができる支援について具体的に考えることを促す、住民の地域における支援者としての役割を知らせる、住民に本人の支援の担い手として支援へ参画することを促すという3つのコードからなるものである。

「個を支える地域をつくる」援助においては、インフォーマルサポートへの参加はワーカーが強制的に促すものではなく、住民の積極な姿勢を促すことが求められる。そのために、ワーカーは、具体的に地域住民たちでできることは何かを考えることを促したり、支援者としての役割があることを伝えたり、そして本人を支える担い手として支援に参画することを促すなどの働きかけを行っていく。

個と地域の間には支援関係を構築する

このカテゴリーは、地域による支援を受け入れることを本人に促す、地域が支援の担い手として受け手のニーズを認識し、地域での支援に向けての体制を整えることを促す、支援の担い手と受け手として、支援関係を築く場を設定する、という3つのコードからなるものである。

地域住民が支援の担い手として本人と支援関係を構築していくために、ワーカーは、本人に対して地域からの支援を受け入れるように促したり、地域住民が支援の担い手として本人のニーズを認識し、自分たちで支援を実際に行っていく体制を整えるように支えたり、本人と地域が支援関係を結ぶことができるように出会いの場を設けるなどの働きかけを行う。

#### 地域による個への支援の質を深める

このカテゴリーは、支援者間の連携を強化する、住民による支援の質を向上させる、住民による支援を活性化させる、専門職と住民の支援の協働のあり方について伝える、本人のニーズに合わせた支援を展開することを示す、という5つのコードからなる。

本人の抱える課題は時間の経過とともに変化していくが、その変化に適切に対応していくことが地域住民による支援においても求められる。そして、より本人が本人らしく地域での生活を継続できるように支援していくことが重要である。そのために、ワーカーは支援者間の連携を強化したり、情報提供などを行うことで地域住民による支援の質を向上させたり、地域住民の支援に対する評価を行うことでさらなる支援の活性化をはかるなどの働きかけを行う。

#### 地域による個への支援のひろがり促す

このカテゴリーは、本人の支援者の広がりを促す、というコードからなる。課題を抱える本人のニーズは多様に変化し、多方面からの協力を得て支援を組み立てることが求められる。ワーカーは、多様な住民が本人の支援に関わることができるように働きかけをしていく。

#### 新たなニーズへの気づきを地域に促す

このカテゴリーは、住民に地域における支援の効力感を感じさせる、課題を抱える個に対する地域による支援について考える機会を提供する、⑭地域に支援を要する人が新たにいることへの気づきを促す、という3つのコードからなる。

個を支える地域をつくるといううえにおいて、ワーカーには、一つの事例の支援体験をふまえて、地域に新たなニーズを抱えた人への気づきを促すことが求められる。そこで、ワーカーは、一つの支援体験をとおして、担い手である地域住民たちが、自分たちの行った活動の効力感や有用感を感じることができるように働きかけたり、フォーマルサービスだけで本人が支えられるものではなく、地域で支えあうことによって成立するということへの理解を促すなどしていく。さらには、地域には同様の事例があるのではないかという視野の広がりや他にも課題を抱える個が存在するのではないかという気づきが促すという働きかけを行っていく。

#### 個を支援する環境を整える

このカテゴリーは、⑳住民が地域における支援の有用感を感じることで、地域における支援の質の向上を図ることを促す、㉑課題を抱える個に対する支援を地域全体の取り組みとする、㉒専門職と地域が協働して個を支えるための連携体制を築く、㉓課題を抱える個が地域で暮らすために専門職の責務について示す、㉔個を支える地域としての基盤をより強化させる、という5つのコードからなるものである。

ワーカーは、一つの事例への支援体験をふまえて、地域のインフォーマルサポート力を検証したうえで、地域のインフォーマルサポート力の向上に向けて働きかけることが求められる。

そこで、地域が自分たちの支援における有用感をもとにさらに支援の質の向上を促したり、自分たちの支援を地域全体の取り組みへと広げていく働きかけを行っていく。また、一つの事例だけでなく、地域全体で、長期的に地域で個を支えていくことができるように、地域と専門職が協働する連携体制を強化したりするなどして、個を支える地域をつくる働きかけを行っていく。

「個を支える地域をつくる援助」の8つの機能は、実践上有意義な内容を含むものであり、本研究ではさらなる詳細な記述を試みたが、さらなる推敲を重ね、地域を基盤としたソーシャルワークの実践に寄与できるものとして精度を高めていきたいと考えている。

#### (2) 高次脳機能障害の本人の力を活用したソーシャルワーク

生活のしづらさに関する研究では、障害特性に対する自己認識の困難さ[自己の認識と事実のずれ][積み重ねられない体験]と、変化した自己への戸惑いや役割の喪失による[自己への継続的否定]という課題が抽出できた。他方、本人の変化は、他者から容易には受け入れられず、本人の行為や意思が阻まれる[他者からの継続的否定]が生じていることがわかった。このような本人と他者との間で生じる課題は、[理不尽な評価]や[不本意な支援]を生起させ、社会とのつながりを希薄にする[社会関係の隘路]という課題につながるものであった。すなわち、高次脳機能障害者の生活のしづらさは、能力や機能という身体に焦点化された課題であり、それが本人、他者、本人と他者間のネガティブな作用によって生じていることがわかった。併せて、それぞれの課題に対する働きかけの焦点を16項目示した。整理すると、本人の不安や動揺、本人による解決プロセス、環境および社会関係、社会制度やサービスへの働きかけであり、それは本人および社会の変化を支え、本人と社会との肯定的な相互作用の促進するものである。次の対象認識に関

する研究では、本人の解決プロセスを可視化することを通じて、本人は自己認識が困難な高次脳機能障害を受容も否定もしないまま、障害から逃げない覚悟と本人なりの努力や工夫によって現実に向き合い続けていることがわかった。

[参考文献] Gromwell, D., Wrightson, P., Waddle, P. (1998) Head Injury the Facts 2ed., Oxford University Press, 3-50.

山田規久子 (2011) 『壊れかけた記憶, 持続する自我 - 「やっかいな友人」としての高次脳機能障害』中央法規.

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

林真帆、高次脳機能障害者の社会生活上で生じる「生活のしづらさ」がもつ意味に関する研究 - ソーシャルワークにおける働きかけの焦点の明確化 -、社会福祉学、査読有、55(2)、2014、pp.54-65.

[その他]

研究成果報告書

『地域を基盤としたソーシャルワークの理論化に向けた個と地域の一体的支援に関する研究 研究成果報告書』(平成 24~26 年度科学研究費補助金基盤研究(C): 研究代表者岩間伸之)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

岩間 伸之 (Iwama Nobuyuki)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授

研究者番号：00285298

### (2) 研究分担者

林 真帆 (Hayashi Maho)

別府大学・文学部・教授

研究者番号：50523304

鷗浦 直子 (Unoura Naoko)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・講師

研究者番号：10527774

### (3) 研究協力者

中 恵美 (Naka Emi)

金沢市地域包括支援センターとびうめ

高橋 俊行 (Takahashi Toshiyuki)

社会福祉法人寝屋川市社会福祉協議会

末長 秀教 (Suenaga Hidenori)

社会福祉法人大阪市平野区社会福祉協議会

横山 紀代美 (Yokoyama Kiyomi)

社会福祉法人堺市社会福祉協議会

橋本 真紀 (Hashimoto Maki)

関西学院大学・教育学部・教授

中島 尚美 (Nakashima Naomi)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・特任講師

村田 進 (Murata Susumu)

社会福祉法人ライフサポート協会常務理事

事

山東 愛美 (Sando Manami)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・前期博士課程